私の基本とすることは、あくまでも漢字は読めればいい、書ける必要はないということです。漢字が読めて、その意味を理解できさえすれば、書くこと、ましてや筆順などということは無意味に等しいのです。世の中に出て、漢字を書くときに、筆順が違っていて不自由したことがありますか？　レポートや報告書を書くときに筆順までチェックするような上司はいたでしょうか？　日常生活の中で、あるいは仕事を進める上で、筆順を間違えて何か不便なことがあったかというと、何もないはずです。

もちろん、漢字を教えた以上は、子どもがどれだけわかったか確かめたいでしょうし、それも必要でしょう。また、どれだけ理解したかがわからなければ、それから先に進むことができないことも事実です。

しかし、テストをしてはいけません。子どもにとってテストはあまり楽しいものではありませんから。誰でも経験があると思いますが、試験が近づくと憂鬱になるものです。それこそ、学校が火事で燃えてしまえばいいなどととんでもないことを考えたものです。

現に、最近では、自殺すると学校を脅して試験を中止させるような出来事も起きています。子どもにとっても、それほど試されるということは嫌なのです。しっかり覚えたかどうかを試すから勉強嫌いになってしまうのです。

ではどうしたらよいのか……子どもが試されたとわからないように確かめればいいのです。さり気なく「この字、何だったかしら？」と聞いてみるのです。確かめるような言い方や咎めるような言い方はよくありません。

ちゃんと読めたら褒めてやります。褒めることは非常に大切なことです。もし読めなかったとしても、絶対に叱ってはいけません。もう一度、教えてやればいいのです。つまり読めても読めなくても、親が顔色を変えるようなことをしないことです。

正しく読めたら褒めてやる。読めなくても叱らない。たったこれだけのことです。漢字だけでなく、どんな勉強でも同じことです。たったこれだけのことで、子どもを勉強嫌いにさせなくてすむのです。

要するに、教えてはいけないということです。教えようとするから、きちんと覚えたかどうか、確かめたくなるし、覚えていなければ叱りたくもなるのです。一種の遊びだくらいの気持ちで、親子で楽しみながら始めてほしいのです。漢字をコミュニケーションのきっかけにしてくれればいいのです。漢字は会話の材料です。日々の生活の中で触れていれば、自然にわかってくるもので、こういうものこそ本物です。教え込まれて覚えたものや、嫌々ながらやったものは、脳が受けつけません。それでは本当の知識にはならないし、脳も活性化しないのです。